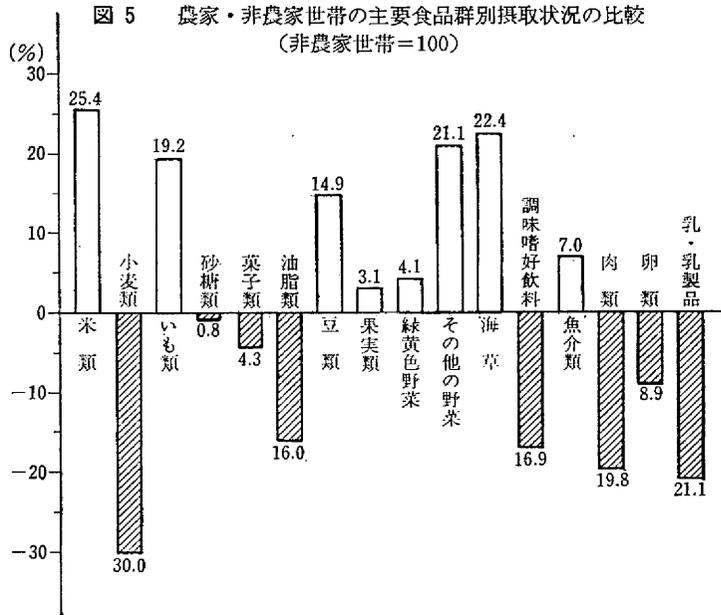


農家世帯は非農家世帯に比べて米類、いも類、豆類、その他の野菜、海草及び魚介類などの摂取量は多いが、小麦類、油脂類、調味嗜好飲料、肉類、卵類及び乳・乳製品などの摂取量は下回っている。

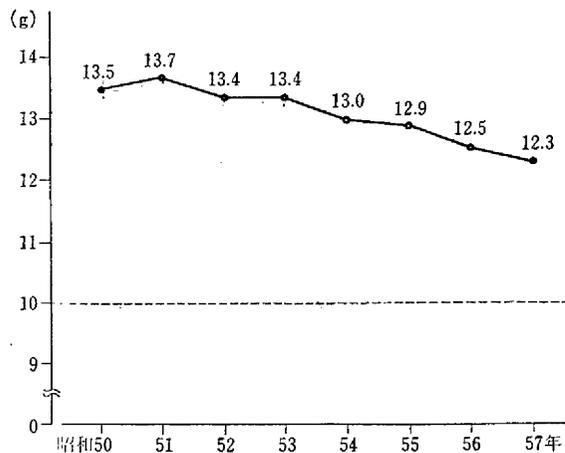


4. 食塩の摂取状況

(1) 全国平均1人1日当たり摂取量

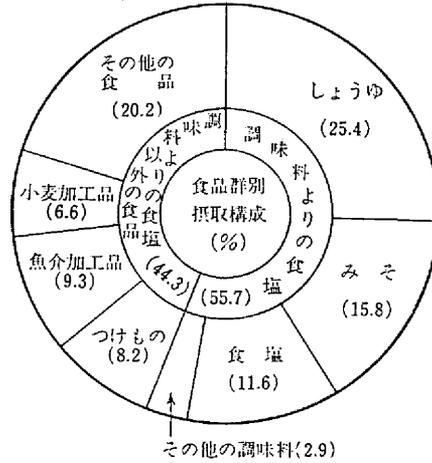
昭和57年調査における国民の全国平均1人1日当たり食塩摂取量は12.3gである。食塩摂取量の年次推移をみると図6のとおり、ゆるやかながら減少傾向を示しているが「日本人の栄養所要量」(昭和54年公衆衛生審議会答申)で示されている1日10g以下という適正摂取目標量に比べた場合にはまだとりすぎている。

図 6 1人1日当たり食塩摂取量の年次推移(全国平均)



また、食塩の食品群別摂取構成をみると図7のとおり、調味料から摂取する食塩は55.7%で、その内訳はしょうゆが25.4%、みそが15.8%、食塩が11.6%などとなっている。一方、調味料以外の食品からの食塩は44.3%で、魚介加工品が9.3%、つけものが8.2%、小麦加工品が6.6%などとなっている。

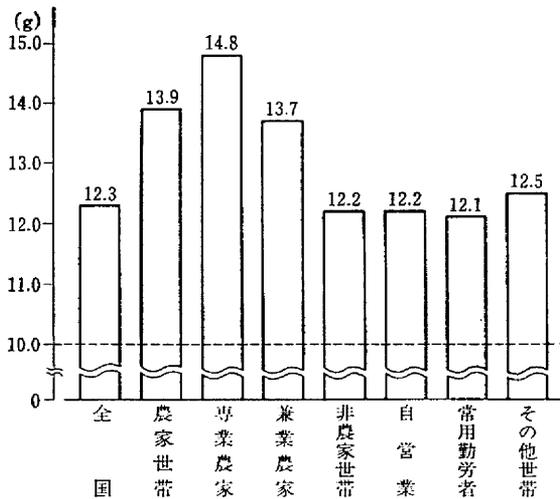
図 7 食塩の食品群別摂取構成



(2) 世帯業態別の摂取量

世帯業態別に食塩の摂取量を比較したものが図8-1である。

図 8-1 世帯業態別の食塩摂取量 (1人1日当たり)

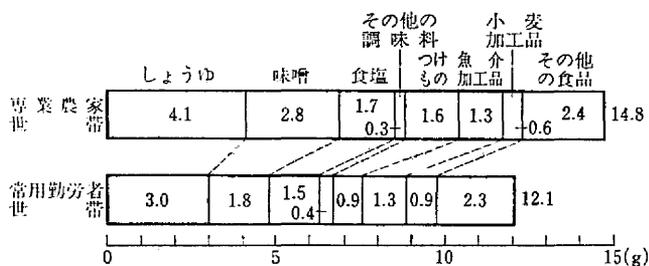


農家世帯と非農家世帯との比較では、農家世帯が13.9gであるのに対して非農家世帯は12.2gとなっている。

また、世帯業態を細分してみると、専業農家世帯が14.8gでもっとも高く、最低は常用勤労者世帯の12.1gであり、両業態間には2.7gの差がある。

なお、専業農家世帯及び常用勤労者世帯における食塩の食品群別摂取量を比較したものが図8-2である。

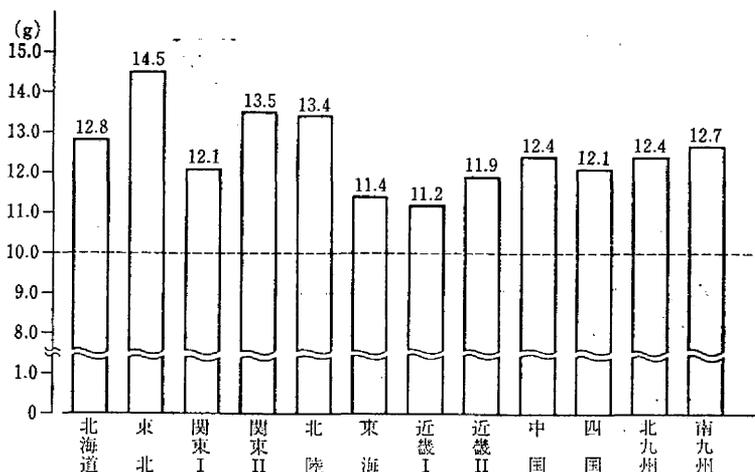
図 8-2 食塩の食品群別摂取量



(3) 地域ブロック別の摂取量

地域ブロック別に食塩の摂取量をみると図9のとおり、東高、西低のパターンが示されている。

図 9 地域ブロック別の食塩摂取量 (1人1日当たり)



(参考)

ブ	ロ	ッ	ク	都	道	府	県	名	
北	海	道		北海道					
東	北			青森県、	岩手県、	宮城県、	秋田県、	山形県、	福島県
関	東	I		埼玉県、	千葉県、	東京都、	神奈川県		
関	東	II		茨城県、	栃木県、	群馬県、	山梨県、	長野県	
北		陸		新潟県、	富山県、	石川県、	福井県		
東		海		岐阜県、	愛知県、	三重県、	静岡県		
近	畿	I		京都府、	大阪府、	兵庫県			
近	畿	II		奈良県、	和歌山県、	滋賀県			
中		国		鳥取県、	島根県、	岡山県、	広島県、	山口県	
四		国		徳島県、	香川県、	愛媛県、	高知県		
北	九	州		福岡県、	佐賀県、	長崎県、	大分県		
南	九	州		熊本県、	宮崎県、	鹿児島県、	沖縄県		